

2022 年度イスラーム信賴学科研全体集会 参加報告

九州大学大学院博士後期課程

辻 大地

この度、イスラーム信賴学の全体集会に現地で対面の形で参加し、シンポジウムの聴講と企画展の観覧、さらにポスターセッションでの発表を行いました。ここでは紙幅の都合もあり、個々の具体的な内容というよりも個人的な感想を中心に本イベントの報告とさせていただきます。

今回の全体集会では、信賴・コネクティビティという大きな枠組みのなかで、すべての発表とコメントが有機的に結びついていたという印象を受けました。先生方の個別の発表は、扱う地域や時代がそれぞれ異なりながらも、いずれも信賴というキーワードの下に、現代の実際的な問題にもアプローチするものでした。またそれらに対する辻信一先生のコメントは、信賴・コネクティビティにおいて重要なものとして位置付けられる「あいだ」という言葉から、さらに世界の均質化に対抗するものとしての「曖昧さ」にまで枠組みを広げるものだったと感じます。これらの発表とコメント、そしてフロアとの議論は、「前近代のイスラーム社会」という曖昧ながらも均質化して考えてしまいがちな自らの研究対象について考え直す契機となりました。またさらには、やや逆説的かもしれませんが、「信賴」「コネクティビティ」という言葉が表すものについて、改めて考えることにも繋がったように思います。

こうした一体感のある構成は、企画展やポスター発表においても同様に感じられました。今回の企画展での展示はアウトリーチ活動の成果であり、イスラーム信賴学ではそうした学術成果の社会への還元をシビルダイアログと呼ぶとの説明がなされます。この言葉通り、イベント参加者と主催者との双方向性が非常に重視されている点で、研究者による講義のような形での、一般的なアウトリーチ活動との別が際立つ展示だと拝見しました。実際に、参加者による「成果」でもあるパネルやその他の展示と、それへの応答として寄せられたコメントを「研究者のあり方を考える」ための材料として再度、展示するという往還的な企画は、コネクティビティの実践であったと思います。

またポスターセッションも、発表の内容はもちろんのこと、交流の機会という意味でもコネクティビティに満ちた会でした。「信賴」という大枠を共有しつつ、様々な分野の発表を一つの場で聞き、お話できる機会は、普段限られた環境で勉強を進めている私にとって非常に貴重なものでした。そのなかで幸い発表の機会を頂戴し、共同で研究者の金田千澄さんと共に、9 世紀のアラビア語史料をもとにした女奴隷とそれを取り巻く男たちの関係性についてお話させていただきました。他の報告者や参加者の方たちのなかでも、少し浮いて見えるようなテーマだったかもしれませんが、様々な分野の方々との応答を通じ、新たな課題やさらに踏み込んでみると面白そうな箇所が多く見付き、まさにコネクティビティの効用を、身をもって感じた次第です。あえて言えば、コアタイムがもう少し長ければ、発表者としても聴講者としても、より充実した時間になったかと思えます。

最後になってしまいましたが、このような素晴らしい機会を誠にありがとうございました。関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

2022 年度イスラーム信賴学科研全体集会 参加報告

立命館大学文学部 4 回生

金田 千澄

今回は 2022 年度イスラーム信賴学全体集会にポスター発表で参加させていただきました。当日のプログラムは4つの報告を聞いた後、全体討論、ポスターセッション、企画展といった流れで、どれも興味深く拝見、拝聴しました。信賴やコネクティビティが主題ということで、「信賴」や「コネクティビティ」という枠組みで普段自身が触れることのなかった様々な時代、地域、観点での報告に触れる事ができ、報告者の方々や質問者の方々のコメントを聞きながら自身の不勉強を痛感するとともに、今後どのような姿勢で研究を行えばいいのかといった指針を得ることができ、大きな刺激となりました。

企画展に関して、自身が学芸員資格取得を目指していたこともあり、特に興味深く拝見しました。その中でも、企画の対象を既にある程度の知識を持っている人ではなく子どもに設定し、写本等を使用するなど、より親しみを持ってもらうための工夫をされていた点が印象的でした。日本ではイスラームを中心に扱った博物館や美術館が少ない中で、自身の専門分野を学芸員としてどう生かしていくのか、専門分野の教育、普及といった問題に対する知見を得る事ができ、大変参考になりました。

自身の発表では、私が卒業論文で使用した史料を扱い、九州大学の辻さんと共同で、アッバース朝期の著名な文人ジャーヒズが執筆した『カイナの書』を中心に、成人男性（パトロン）と女奴隷の関係性について、これまで先行研究で指摘されてきた『カイナの書』の執筆目的に対する疑問に加え、カイナが成人男性間の関係性構築の道具となり得た理由に関して発表させていただきました。「信賴」や「コネクティビティ」といった観点から今回の発表内容を構築するにあたって、一つの史料をある観点から見た際に何をどこまで見いだせるのかということや、内容を構成する方法、ポスター制作など、今後自身が大学院で研究を行うにあたって必要となってくる多くのことを学ぶことができました。加えて、これまで学外で発表する機会が無かったため、学外での発表の雰囲気なども体感することができ、大変貴重な機会をいただくことにもなりました。

今回 2022 年度イスラーム信賴学全体集会に参加させていただいたことで、繰り返すにはなりますが自身の勉強不足を痛感するとともに、様々な観点や地域、時代の発表を聞くことで、自身の研究に対する意識に大きな刺激をいただくことにもなり、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。最後に、今回ポスター発表にお誘いいただき、多くのご助力を賜りました九州大学の辻様、沢山の刺激をくださった発表者の方々、また、事務局の皆様へ厚く御礼申し上げます。